

小学生による
まちの **防災・防犯・交通安全** を
テーマとした安全・安心マップづくり

ぼうさい探検隊

〈実施マニュアル〉



「ぼうさい探検隊」って何？

「ぼうさい探検隊」とは、子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、マップにまとめる実践的な安全教育プログラムです。

防災・防犯・交通安全教育に役立ちます！

昨今、多くの自然災害が発生するとともに、子どもが被害者となる犯罪・事故も増加しています。地域の安全・安心が脅かされている中、「ぼうさい探検隊」は、防災への意識を高めて災害への備えを認識するだけでなく、子どもの防犯・交通安全教育にも役立ちます。

ぼうさい探検隊の効果

- ① 子どもの防災・防犯等安全意識が向上します。
- ➡ 楽しみながらまちを探検することで、自主的に災害への備えや身近な危険について考え、気づくことができます。
- ② 探検をしながら地域への関心・愛着が生まれます。
- ➡ 地域の人たちとの交流によって地域への関心や愛着が生まれ、「地域コミュニティ」も強化されます。



こんなときに ぴったり！

- ・ 小学校の安全教育授業
- ・ 子ども会
- ・ ボーイスカウト、
ガールスカウトなど
での野外活動 等

マップにまとめて コンクールに応募しよう！

優秀作品には文部科学大臣賞、防災担当大臣賞などが贈呈されます。

👇 応募要項 👇

損保協会ホームページ

<https://www.sonpo.or.jp/>



「ぼうさい探検隊」のプログラム

1 事前学習

まずは、まちの危険について、どのようなところが危険なのか、事前学習の手引きを活用して考えてみましょう。

2 まちなか探検 (フィールドワーク)

子どもたちの視点でまちを探検して、防災・防犯・交通安全に関する様々な施設や設備・危険なところなどを発見します。

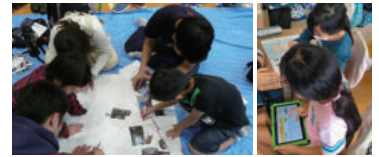
3 マップの作成

街区地図などを用いて発見したこと、気づいたことを模造紙に記入、整理していきます。

タブレットを使えば手軽にデジタルマップづくりができます。

4 発表

マップができあがったら、自分たちで発見したことや気づいた点などについて発表します。他のチームの発表もしっかり聞きましょう。



当日までの主な準備

1 開催日時やテーマを決定

- ・まちなか探検の開催日時を設定します。
- ・防災や防犯、交通安全を基本に地域の特性にあったテーマを設定し、チェックポイントを決めます。右ページを参考にしてください。

2 事前学習、まち歩きコース等を決定

- ・探検する地域の下見を行い、交通量が多い所や危険な所を事前にチェックして子どもの安全を確保します。
P4 を参考に、マップを作る際のイメージをもっておくと、さらにスムーズです。

3 当日使用する物品・資料を準備

- ・街区地図やワークシートなど当日使用する物品や資料を準備します。
P5 をご参照ください。

4 ぼうさい探検隊を実施

- ・避難所までのルートや通学路など自分たちの住んでいるまちを探検します。
P6 ~ 7 を参考にしてください。

※その他準備しておくこと

・引率者の確保

交通安全および事故・ケガ防止の観点から、まちなか探検の際には、保護者やボランティアの方など、必ず大人が1人以上引率し、必要に応じてサポートしてください。

・消防・警察等関係団体への連絡

まちなか探検の際に、消防署・交番などでインタビューなどを行うとより理解が深まります。

・ケガ等に備えて保険への加入を忘れずに

万が一の事故やケガに備えて、傷害保険などに加入しているか、事前に確認しておきましょう。
(詳しくは最寄りの損害保険代理店または保険会社にご確認ください。)

まちなか探検のテーマやチェックポイントの例

マップづくりのルートは、できるだけ通学路やよく遊ぶ場所に設定しましょう。

防災・防犯・交通安全など、まちなか探検のテーマごとにチェックポイントを設定すると効果的です。以下のようなテーマ・チェックポイント例を参考に、地域の実情に合った内容で実施しましょう。

それぞれの設備や施設について、「安全か、それとも危険か、みんなで考えてみよう」というように子どもたち自身にも考えてもらおうと、より高い学習効果が期待できます。

もちろん、全てのチェックポイントを盛り込む必要はありません。あまり欲張りすぎずに、まずはテーマごとに3～5つの要素を選んでみるとよいでしょう。

損保協会ホームページ上に、テーマごとにチェックポイントや指導時のアドバイス例をより詳しく掲載しています。こちらをあわせて参考にしてください。

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/bousai/index.html>



防災をテーマにする場合の チェックポイント例

【設備】

- 消火器・AED
- 消火栓・送水口
- 防火水槽・消防水利
- 電話ボックス

【施設】

- 避難場所
- 防災備蓄倉庫
- 消防署
- 病院

【その他】

- 自動販売機
 - コンビニエンスストア
 - 地域特有の危険
 - 地域の防災対策
 - 地域の災害史
- など

防犯をテーマにする場合の チェックポイント例

【設備】

- 防犯の看板
- 防犯カメラ
- 街灯
- 電話ボックス

【施設】

- 子ども110番の家
- 交番・警察署
- 駐車場
- 公園・空き地

【その他】

- コンビニエンスストア
 - 人通りの少ない道・暗い道
 - 高い塀や物陰のあるところ
 - 地域の状況（不審者情報など）
 - 地域の防犯対策
- など

交通安全をテーマにする場合の チェックポイント例

【設備】

- 横断歩道・歩道橋
- ガードレール・歩道
- 信号機・標識
- 電話ボックス

【施設】

- 駐車場・駐輪場
- 交番・警察署
- 消防署
- 病院

【その他】

- 自転車の安全な乗り方
 - 交通量の多いところ
 - 地域特有の危険
 - 地域の交通安全対策
- など

そのほかのテーマで実施する場合の チェックポイント例

● バリアフリー・高齢者などへの対策

- バリアフリーの場所
- 高齢者のケアや対策
- 地域独自の対策

● 環境問題

- 環境変化の影響
- 未来に向けたまちづくり

● 地域の再発見

- 地域の良いところ探し
 - 住みよいまちづくり
- など

模造紙によるマップの例

マップにタイトルをつけ、チーム名を書きます。

気づきや感想を書きます。

南海トラフ地震の逃げ道マップ
北川プラザーズ

年代	地震名	被害	被害の規模
1	1944年 相模湾地震	相模湾沿いの建物が倒壊	0.5m
2	1946年 明石海峡地震	明石海峡の橋が倒壊	0.5m
3	1948年 宝永地震	宝永の橋が倒壊	2.0m
4	1949年 相模湾地震	相模湾沿いの建物が倒壊	2.0m
5	1952年 相模湾地震	相模湾沿いの建物が倒壊	2.0m

避難ルート

近隣の避難所	駐車場	定員	エレベーター	トイレ	避難所	危険箇所
① アスト	あり	370人	あり	あり	あり	あり
② 三井物産	あり	1350人	あり	あり	あり	あり
③ 三井物産	なし	90人	あり	あり	あり	あり
④ 文化センター	あり	370人	あり	あり	あり	あり

調査した結果をまとめます。

地域の方々にインタビューして わかったことを書きます。

撮ってきた写真をはり、気づいたことを書きます。

色分けした凡例は地図を見やすくします。

タブレットで作成したマップの例

作成した方のコメント

- ・タブレットを使うことで、臨場感をもって災害に向き合うことができた。
- ・コロナ禍であっても、タブレットを使うことで少人数で実施することができた。
- ・探検で発見したことをタイムラグなく、マップに反映させることができ、容易に編集作業ができた。
- ・デジタルマップがシンプルな構成になっているからこそ、ポイント毎の文書表現で考える力が身についた。
- ・初めてタブレットにさわる子どもでも、すぐに扱い方を習得し、子ども同士で教え合う様子がうかがえた。

準備しておくもの

☆まちなか探検・マップ作成に必要な備品の参考例 (模造紙によるマップを作成する場合)

まちなか探検に必要なもの

- 持ち歩き用の街区地図 (A4 サイズ程度)
- 画板・クリップボード
- 鉛筆・消しゴム
- 説明用資料 (注意事項やスケジュールなど)
- ワークシート (必要に応じて)
- チェックポイント確認用マークシール
- デジタルカメラ

マップ作成に必要なもの

- まちなか探検の際に撮影した写真 (なくても可)
- 鉛筆・消しゴム
- マジック・カラーサインペン
- マークシール (数種類)
- ポストイット ●模造紙
- スティックのり ●セロハンテープ
- はさみ

〈実施キット〉



「実施キット」の内容

作成されたマップを「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」にご応募いただくことを条件に、このような「実施キット」を希望によりご提供しています。ただし数に限りがあります。また、内容は変更になる場合があります。

●タブレットを使ったデジタルマップを作成する場合は、これらの機能が内蔵されているため、準備は不要です。

☆ワークシート例

まちなか探検の際、次のようなワークシートを作成しておくと、より理解が深まります。

ぼうさい探検隊ワークシート

年 月 日
グループ名: _____
名 前: _____

チェックポイント 1
小学校の備蓄倉庫にはどんなものが保管してあるか調べて、記入しましょう。

チェックポイント 2
消防署の人にインタビューしてみましょう。

Q 消防署では毎日どんなお仕事をしていますか。

Q わたしたちのまちではどんな事故や災害が多いのですか。

Q 事故や災害にあわないためには、どんなことに注意すればよいですか。

Q その他

◎探検して気づいたことや発見したことを書いてください。

マップがこのように 役立っています!

●危険箇所や施設が改修

「ぼうさい探検隊」を通じて子どもたちが気づいた点を自治体に改善要望したところ、実際に壊れかけたブロック塀がフェンスに改修されたり、街灯・信号・スクールゾーンなどが設置されました。

●地域の広報誌に掲載

学校での展示だけでなく、作成したマップを縮小して地域に配布したり、自治体の広報誌にとりあげられるなど広く地域の皆さんにまちの安全意識を呼びかけています。

「ぼうさい探検隊」でつくる地域安全安心マップにチャレンジ! 実践事例の紹介

スケジュール・時間配分の例は以下のとおりです。参加する児童の学年や人数などを考慮しながら、子どもも大人も無理なく・楽しく実施するうえでの参考としてください。

模造紙によるマップづくりを行う場合、
損保協会ホームページ上に、実施する場合の事前準備や時間配分・進め方の例を
より詳しく掲載しています。こちらをあわせて参考にしてください。

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/bousai/index.html>



●実施する場合の時間配分・進め方の例 ★印がついたところは子ども主体で行います。

当日の流れ

9:30 【ステップ1】 集合・事前学習

まずは、まちの危険について学ぼう。
まち歩きでの注意点をよく聞いて、どんなところを探せばいいか、
マップづくりのポイントを学びます。

どんなところが危険なのか、
事前学習を通して、考えてみよう。



10:00 【ステップ2】 グループ編成

★グループごとに集まって、班長・副班長・地図係などの役割を決めよう。

- ・班長 班をまとめる
- ・副班長 班長を助ける
- ・地図係 危険なところ、安全なところ、子ども110番の家、インタビューしたところにしるしをつける
- ・写真係 写真を撮る
- ・インタビュー係 まちの人にインタビューしたことを書く
- ・全員 ワークシートに気づいたことを書く

マップづくりの注意ポイント

- ① 実際におこった事件の場所や不審者情報などにポイントをおいたマップにならないようにしましょう。
- ② 「〇〇警察の方の話では・・・」などとし、インタビューした相手の名前は記載しないようにしましょう。
写真を撮らせてもらうときは了解をもらってからしましょう。
- ③ 写真のなかに表札や車のナンバープレートが写っていたら黒くぬって見えないようにしましょう。

10:30 【ステップ3】 フィールドワークに出発!

ジャケットを着用すれば
地域安全安心マップづくりの
活動中だということがわかる
目印になります。



★危険な場所を考えてみよう

危険な場所や子ども110番の家を見つけたら、白地図にシールをはっつけていこう。



子ども110番の家を
発見。ここは安全。

気づいたことは、ワーク
シートやタブレットにど
んどん書き込んでいこう。

この辺で危険だと感じる
ところがありますか?



地域の方に
インタビュー

写真係は
デジカメや
タブレットで
撮影しよう。



★インタビューの例

まちの人にいろいろと聞いてみよう。

- ① 「こんにちは。いま、地域安全安心マップをつくっています」
- ② 「もうしわけありませんが、お話を聞かせていただけませんか?」
- ③ 「犯罪や事故がおこりそうな場所がありますか?」
- ④ 「ご協力ありがとうございました」

11:30 フィールドワーク終了〈昼食、休憩〉

お疲れさまでした。次は、マップづくりです。



13:30 【ステップ4】マップづくり

マップづくり準備品

- 記入したワークシートとインタビューシート ●撮影した写真プリント ●模造紙 ●スティックのり ●はさみ
- マジック (5~6色あると便利) ●ポストイット (4色あると便利。シールと色を合わせると良い。) ●マークシール

★作業その1：写真とコメントの整理



1 歩いたルートをマーカーなどで地図上に記入。



2 街区地図のチェックポイントにシールをはります。



3 ワークシートに記入したコメントがどの場所だったかを確認します。



4 写真にコメントを記入していきます。(コメントは気づいたことや感想を書きます)



5 コメントを記入するポストイットは、「危険」「安全」「インタビュー」などで、シールの色に合わせて色分けします。



タブレットを使用すると編集も簡単！

★作業その2：模造紙でマップをつくる

写真の余分なところはとって好きな形にカットしよう。



6 模造紙にタイトルとチーム名を記入し、街区地図をはいたら、コメントをつけた写真をおおまかにならべてみよう。

マップづくり作業はみんなで、楽しく！



7 ならべた写真とコメントをのりで模造紙に固定。



おおよそできあがったら、全体を見てみよう。



タブレットで作成したマップのイメージ

14:30 【ステップ5】マップ完成！発表会

- マップにタイトルをつけ、チーム名を書きます。
- 撮ってきた写真をはり、気づいたことを書きます。
- 地域の方々にインタビューして わかったことを書きます。
- 色分けした凡例は地図を見やすくします。
- 調査した結果をまとめます。
- 気づきや感想を書きます。

まちなか探検の際に心がけていただきたいこと

- 個人情報（表札や車のナンバープレートも含む）や人権・肖像権にも留意するとともに、個人宅の災害対策を非難したり、不審者と決め付けて個人攻撃したり、事故や犯罪の被害者の気持ちを逆なでしたりすることのないよう、十分に配慮してください。
- まちなか探検の際は、交通事故やケガのないよう、特に注意しましょう。

